

2020



 **愛知淑徳大学**
コミュニティ・コラボレーションセンター

長久手キャンパス
〒480-1197
愛知県長久手市片平二丁目9
TEL (0561) 62-4111(代表)

星が丘キャンパス
〒464-8671
名古屋市千種区桜が丘 23
TEL (052) 781-1151(代表)

CCC

活動報告書

愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター

2020 年度CCC活動報告書
発行：愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター



コミュニティ・コラボレーションセンター(CCC)とは

「違いを共に生きる」社会の実現をめざし、
学生一人ひとりの広い視野と行動力を育てます。

愛知淑徳大学の理念「違いを共に生きる」に込められた思いを受け継ぐコミュニティ・コラボレーションセンター(CCC)は、「地域に根ざし、世界に開く」という姿勢で、学生の実践力を育む「教育」と、学生の自主活動を支える「支援」に取り組んでいます。

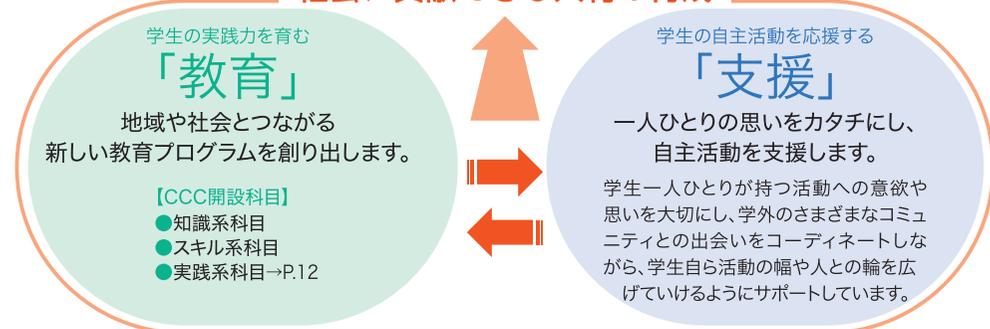
学生一人ひとり、輝く個性や未来を拓く力を持っています。その大きなパワーを地域での「体験」や「実感」を通して引き出すのが、CCCの役割。学生のさまざま

なコミュニティと連携を強め、地域社会と大学の活性化を図ること、そして、これから社会へ羽ばたく学生たちの視野を広げ、人間力や社会に貢献できる人材になるための力、生きる力を育むことをめざしています。

CCCから地域、社会、世界へ飛び出した学生は、さまざまな人と交流を深めながら共に活動し、「違いを共に生きる」社会の実現に向けた新たな風を次々と起こしています。

CCCの学生育成ビジョン

広い視野と行動力、豊かな人間性を持ち、
社会に貢献できる人材の育成



CCCの特色

1 「地域や社会に貢献したい」という思いに応える教育カリキュラム

CCCでは、企業が実際に抱える課題をグループで解決していくPBL(課題解決)型授業、ボランティア活動やまちづくりに関する基礎知識を学ぶ講義型授業などを通して社会貢献活動について学びます。



2 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング

地域の行政機関、企業、NPOなどからボランティアの募集情報が届きます。CCCでは、学生の思いに耳を傾け、それに合わせたボランティア活動を紹介・支援しています。



3 学生が企画・運営する地域活動をサポート

CCCでは、地域での課題を自ら発見し、それらを解決するために、数多くの学生団体が活躍しています。活動に行き詰まった場合は、CCCスタッフが寄り添い、一緒に課題の解決を目指します。



*活動のイメージを伝えるために、コロナ禍前の写真を用いております。



目次

1. コロナ禍において	
1.1. コロナ禍におけるメッセージ	4
1.2. コロナ禍での活動報告	5・6
1.3. 長久手市4大学連携事業	7
2. 2020年度 特別報告	
「コラボメッセ」	8・9・10
3. 2020年度 活動実績	11
4. センターの取り組み	
4.1. カリキュラム	12・13
4.2. 活動サポート	14
(1) マッチング	15
(2) 自主活動の支援	16・17
(3) チャレンジファンド	18・19
5. 学生スタッフの活動	20・21・22
6. 2020年度 全体講評	23
7. 初めてボランティアを募集される方へ	23

Information

2016年2月
「CCC labo」開設

みんなの笑顔で、地域を変えよう！
活動の様子を絶賛公開中！

本書にて紹介しきれなかった学生たちの活動の様子を、特設サイト「CCC labo」にて発信しています。ぜひご覧ください。



←QRコードまたは CCC labo nagoya で検索！

1 コロナ禍において

1.1 コロナ禍におけるメッセージ

2020年2月21日、文部科学省より新型コロナウイルス感染症対策のため、活動自粛要請の連絡が入ってから1年間。CCCでは、対面のボランティア活動を中止してきました。世界中で、人と人が直接のつながりを持つことを規制される生活が続きました。

それまで、活動先としてお世話になったみなさまのもとに、学生たちは行けなくなりました。

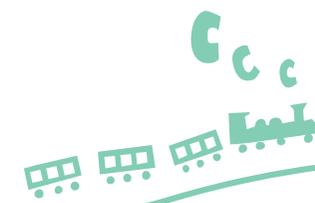
「大変だ、大変だ」というお声を何度も聞く中で、CCCの無力さを痛感しました。それでも、この規制された状況の中で、様々なアイデアを出し、何かできる活動はないかと試行錯誤してくれた学生たちもいました。

この2020年は誰にとっても忘れられない年です。今号を発行できるのも、「いつも会っていた子どもたちは元気でしょうか?」「自分たちにも何かできることはないのでしょうか?」と、あきらめないで大学に進言してくれた学生たちがいたからこそだと思います。

そして、活動できない間も、「今、会えないのは仕方がないから。コロナが終息したら、また、来てくださいね。待っていますから。」と言ってくださった地域の方々。改めて、CCCこそが、みなさまに助けられ、支えられてここまでセンターを運営してきたのだと、心から感じた1年でした。



1.2 コロナ禍での活動報告



青少年育成

手作りマスク作成ボランティア

今回、私はコロナ禍のため在宅でおこなえる手作りマスク作成ボランティアに参加しました。活動内容はマスク作りと児童養護施設の子どもの向けて手紙を書くというものです。手紙は全て平仮名で書き、子どもに喜んでもらえるよう考えながら絵を描いて色使いにも工夫をしました。在宅ボランティアは初めての挑戦でしたが、事前説明やメールで質問等のやり取りをしていき準備が整った状態でおこなえたので、スムーズに進めることが出来ました。マスク作りでは、離れていても支援ができることのありがたさ、不器用ながら頑張った完成時の達成感、



子どもの喜ぶ姿を想像するなど、間接的だからこそこの思いがたくさん生まれ、とても貴重な経験になりました。今後も今だから出来るボランティア活動を通して、少しでも誰かのために貢献できたらいいと思います。

福祉貢献学部 2年 稲垣 泉帆



手作りマスクお渡し先の声 児童養護施設

この度は手作りマスクの寄贈を頂きありがとうございました。子どもたちはかわいらしいデザインを気に入り、とても喜んで使用しております。児童養護施設ではたくさん子どもたちがコロナウイルス感染予防に努めています。その手助けとな

駒ヶ原 田中 様

る取り組みをしてくださることで、人は人によって支えられているということを改めて実感し、子どもたち自身の気付きや成長にも繋がっていくことと思います。児童養護施設で暮らす子どもたちと今後も関わりを持って頂けるとありがたいです。

震災支援 郵便先生

私たちは、東日本大震災で愛知県に避難した子どもたちの居場所をつくる活動をしています。子どもたちのニーズに応え、ここ一年半は学習支援に力を入れてきました。コロナ禍では、教材のコピーと返信用封筒を送り文通で学習支援をおこなう郵便先生をしています。子どもたちの解答やお手紙からは会えない中でもつながりを感じ、それぞれのカタチで前を向く大切さを学びました。また、たくさんの人の想いのおかげで今のつながりがあることを、とても感謝しています。今後も、活動の前後にある人の存在を心に留めて、今できることを精一杯活動します。



参加した子どもからの手紙

あそび隊 お姉さんへ
こんにちは。採点してくださってありがとうございました。今回は、3まいとも自信があるので、『1間もまちがえないといいなあ〜。』と思います。なごやであそび隊のみなさんも『コロナに負けないで』がんばってください。(原文ママ)

交流文化学部 3年 伊藤 菜々子

福祉 子ども食堂

愛知医科大学の学生と共に瀬戸市の子どもたちに向けて、家庭で学び楽しめるキットを送る活動をおこないました。コロナにより人と会う機会が少なくなってしまったけれど、この活動に参加してくれた子どもが少しでも人とのつながりを感じられたらと思い活動に参加しました。私自身活動に参加したことで、どのような情勢であっても同じ想いを持っていれば、新しく出会い共に活動ができることを知り、この先どのように社会が変化していくかわからないけれど想いをもち続けることを大切に進んでいきたいと思うことができました。

福祉貢献学部 4年 驛田 彩音



連携先：NPO法人楽歩

大原 様



今年は新型コロナウイルスの影響で子どもたちと調理をして交流する、食事を楽しむということができませんでした。代わりに、「会えないけれど自宅に想いを届けたい」と学生さんが様々なアイデアを考え、実行してくれました。コロナが終息して、また例年通りの「子ども食堂」ができるようになったら、様々な学生さんと子どもたちがつながりながら、地域を支えてくださるとありがたいです。

国際協力

**ベトナム人技能実習生さんへの
オンライン日本語教室**

2020年7月半ばから、コロナ禍で帰国できず名古屋市天白区の徳林寺に滞在するベトナム人技能実習生の方たちと毎週オンラインで日本語交



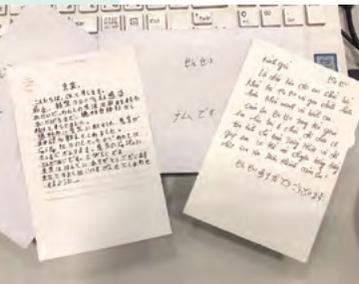
流をおこなっています。リモートの活動なので、現場の空気感が読み取れない事に時々苦悩します。しかし、現場のスタッフさんが丁寧に情報共有してくださるので、それを頼りに状況把握をしています。コロナ禍でもできることがあれば、という思いから参加した活動でしたが、私自身多くのことを学びました。技能実習生の方たちの実状を知り、声を聴き、彼らを取り巻く環境に問題があると強く感じました。そして、このことを多くの人に知ってもらいたいと思うようになりました。

交流文化学部 4年 水谷 麻美

参加者のベトナム人技能実習生のロイさんからの手紙

こんにちは。ロイと申します。
最近、新型コロナウイルス感染のせいで、わたしの生活は困りました(困りました)。おかげさまで、徳林寺神社(徳林寺)から助けてもらいました。
徳林寺に(で)先生にいました。先生が日本語を教えてくださいました。

じゅうぎょ(授業)はたのしかったけどわたしはもうすぐかえります。
先生のじゅうぎょ(授業)にさんがいないです(授業に参加できなくて)。さびしいです先生はほんとにありがとうございます。
先生とかよくはいつもげんきとしあわせするように(いつまでも元気で幸せしてください) … (原文ママ)



1.3 長久手市4大学連携事業

ビジョン4Uワーキング

この事業では、長久手市と市内の4大学が協定を結び、社会貢献/教育活動支援/研究推進/拠点整備の4つのビジョンに基づく取り組みをおこなっています。

昨年度は、市内で活動する学生・市民団体を中心に声をかけ、横断的な交流を目的としたワークショップを開催しました。

今年度はコロナ禍ということで、対面での活動が自粛となりました。また、地域では「子ども食堂」をおこなうことができず、必要としてきた家庭にとって「子ども食堂」に行けないことが問題となりました。NPO法人楽歩さんと連携しておこなった、「長久手子ども食堂」では、希望する家庭へのごはんパックの配布と学生たちによる子ども向けのオンライン栄養教室を開催しました。3回の開催で35件ほどの家庭にごはんパックが届けられました。

オンライン同士での会話で上手くコミュニケーションが取れるか、子どもたちが栄養について理解できるか不安でしたが、子どもたちの反応もよく楽しく食育をすることが出来ました。この活動で子どもたちが少しでも食に興味を持ち、食べることへの大切さを理解

してもらえると嬉しいです。今後も対面での活動はもちろん、オンラインでの活動を通して食の大切さを伝えていきたいと思います。

健康医療科学部 2年 梅津 真衣
健康医療科学部 2年 神谷 結衣





2 コラボメッセ



2020年10月11日(日)、11月21日(土)、12月13日(日)の3回にわたり、行政機関、企業、NPOなど(以下、CCC連携団体)のみならず一堂に会する第6回「コラボメッセ」をおこないました。例年、対面での開催でしたが、今年は

Zoomを活用し、活動紹介などをおこないました。オンライン上での交流にも関わらず、今まで協力して事業を積み重ねてきた時間があるからこそ、協働企画も生まれ、改めて日々の協力事業が大切だと感じました。

第1部 座談会

「若者が地域に参画する意義 ～CCC開設時を振り返りながら 15周年～」



センター開設時にCCCの基盤を創りあげられた本学教員の五島幸一先生(初代センター長)、同志社大学教員の永田祐先生、東京外国語大学教員の小島祥美先生、名古屋大学教員の小川明子先生(メッセージ参加)にご参加いただき、以下をテーマに座談会を開催しました。

- ・開設時を振り返る
- ・学生にこのセンターを活用して得てほしいこと
- ・CCC、学生への今後に向けてのメッセージ

最初に五島幸一先生から、CCC開設の運びとなった経緯が話されました。その後は、永田祐先生がファシリテーターとなり先生方の会話形式で、開設当時の話し合いや大切にしていた指針を、参加者の学生にも聞いてもらいました。そして、座談会の中から、大切な言葉をいくつか選びました。

五島先生

1976年アメリカにいた。日本に戻ってきたらアメリカとは、全然違い、大学が閉ざされた空間だった。アメリカでのボランティアは、コミュニティサービスという。学生の力を活かして、大学と社会をつなげる教育センターを創ってほしいと思った。

永田先生

CCCは、ボランティアセンターではなく、地域と協働するセンター。地域にお世話になるのではなく、地域の人たちと一緒に

活動を、ということをお願いするセンターであってほしいと思った。

小島先生

助教として着任し、熱意を伝え、学生と一緒に汗を流していかうと思った。学生たちには、ホンマ者と出会って、自分の魅力を見つけてほしいと思っている。活動をする中で、自分ってこんなことができるんだなあ、意外とこれが苦手なんだなあ、やればできた、など、自分の魅力や強みに気付いて欲しい。

小川先生

本や講義だけではわからないことを学ぶ場にしたかった。世の中には知らない世界があり、そして会ったことのない人たちがいる。そうした経験を経ないままでも何かを学んでも、それが生きて知にならないのではないかと感じていた。経験と学びを循環させていくことができるインキュベーターのような組織になればいいと思っていた。自分の力でちょっとだけ社会が変わるという経験をして欲しかった。今の学生さんは自分を無力だと思い過ぎ。できることはたくさんある。小さなことでも喜んでもらえたりすると嬉しいといった経験をしてもらいたい。失敗することもあるけど、それもまた学びのチャンス。恐れなくてチャレンジして欲しい。

永田先生

自分から外に出て、地域にどんな課題があるのかを知る。現場に立って、自分に直面する経験が重要。小島先生も言われたが、現場に行くと、自分にはこんなことができる、意外にこんなことが苦手、と自分を知る経験になる。

小島先生

今年は、対面活動ができないが、コロナ禍だからこそ、ピンチをチャンスに変える！元々不登校気味だった子どもが、オンラインの支援を受けて、その後、学校が再開

したときに登校できるようになった、という事例もある。コロナ禍で対面が出来なくなるなど、悪いことばかりではなく、良いこともある。だからこそ、ピンチをチャンスに捉えて、動いた分、結果はでる。

永田先生

対面でしか出来ないことがあると思う。しかし、新しく挑戦する大切さも感じる。「正しく恐れて、歩みを止めない」。

小島先生

これからのCCCは、同じ目標を持って、みんなが進んでほしい。そして、学生たちにとって、今、必要だと思うことを見極め、一緒に進んでほしい。

五島先生

学生が外に出て、いろんな出会いをするときには、自己開示をしなければならない。自己開示をすると、傷つくこともあるが、それこそがいい経験。自分で気づき、一步一步進んでいくことが大切。

永田先生

震災の被害にあった方から、こんな言葉を聞いた。「家も家財もみな流されました。人と人との関係は流されません」。人は、人と人との関係で成長する。「違いを共に生きる」を思い出して過ごしてほしい。



開設当時の先生方の熱い想いが伝わってきました。それを引き継いで活動してきた職員や学生たちも、この座談会に参加し、改めて愛知淑徳大学の一員として、地域の方々と歩んでいこうと思いを返しました。

第2部

久しぶりだね!みんなどうしてた?&活動紹介

今年度はコロナ禍で、大学に登校することさえままならない学生がたくさんいました。

仲間と会えない、活動もできない、そんな環境を過ごしてきた学生たちと、「今の現状の思い」や「この状況でも、自分が考えるボランティア活動」について、画面上の全員と言葉を交わすことを大切にしながらディスカッションをしました。

学生からは、「今まではボランティア活動の行き帰りの時間に、心の準備や振り返りができていたことに気付いた。コロナ禍の今、オンラインでのやりとりだと、活動の前後の



「間、が無く、終了する時はブチっと終わってしまう」などの意見がでました。ご参加いただいた学外のみならず、様々な応援の言葉やアイデアをいただき、モチベーションの維持が難しかった学生たちの気持ちも、良い方向に切り替えることができました。

第3部

CCC@homeライブ

「ボクノート」

第3部は恒例となった全員での大合唱。今年度は直接集まっての合唱ができないため、オンラインの画面を通しての合唱となりました。選曲は、昨年度に引き続き「ボクノート(スキマスイッチ)」。「ボクノート」はCCCが開設した年に流行した曲です。ギターの生演奏を背景に、今までの活動の写真をながら歌い、離れていても心が一つになれるあたたかい時間を過ごしました。CCCに関わってくださるすべての方々への感謝の気持ちがあふれ、これから先もみなさまと一緒に走り続けたい、と改めて強く感じた会となりました。



参加学生の声

CCCの歴史を知れて、とてもよかったです。感動しました！ボランティアをただやるのではなく、「地域と協働する」という考えでつくられたCCCだからこそ、このようなあたたかい場ができていくのだと感じました。また、様々な方の意見が聞けたのも魅力でした。「コロナだから…」と逃げる言い訳にするのではなく、「コロナだからこそできることを考える」という前向きな考え方を私も心掛けたいです。ボクノートも素晴らしかったです！
福祉貢献学部 2年 上條 真美

ご協力をいただいた連携団体・他大学学生団体のみなさま

アジア車いす交流センター、千種区社会福祉協議会、千種区選挙管理委員会、中部プロボノセンター、デンソー、豊田市わかもの会議、トヨタ自動車 ボランティアサークルJDRトヨタ、長久手市 たつせがある課、名古屋市総務局大学政策室(ナゴ校)、ボラみみより情報局、楽歩

Windra(ナゴ校)、FIWC東海委員会(南山大学&愛知淑徳大学)、学生実行委員会ISIKI(ナゴ校)、DoNabe net in あいち(愛知県立大学)、歴史文化研究会(名城大学)

※あいうえお順、法人名省略

3

2020年度

コミュニティ・コラボレーションセンター 活動実績

●利用状況

CCC登録者人数 1,774人
利用者数 延べ3,636人
(内オンライン1,360人)

登録 ボランティア活動に参加するためのCCCへの登録
利用者 情報取得、活動の相談、ランチタイム企画参加、ミーティングなどで来室する学生
参加者 連携団体から募集があったボランティア活動にCCCを通して申込み・参加した学生、または学生団体などの自主活動に参加した学生

募集型ボランティアへの参加者数*(分野別)

年度	国際交流・協力	青少年育成	まちづくり	福祉	環境	震災支援・防災	学生団体	その他	計
2020 (対面)	0	0	5	0	0	0	33	0	38
2020 (非対面)	70	1	0	89	0	23	132	0	315
2019	79	200	75	184	48	10	1,233	44	1,873
2018	108	171	25	256	99	23	1,584	89	2,355

●産学官連携事業(抜粋)

- 愛知県との連携
かがやけ☆あいちサスティナ研究所の研究者として本学学生が参加

●受託事業(抜粋)

- 子ども大学につしん (委託者:日進市)
- グリーンマップ作成プロジェクト (委託者:長久手市)
- 長久手市大学連携推進ビジョン4Uの推進に関する事業 (委託者:長久手市)
- 小坂地域連携プロジェクト (委託者:下呂市)

●助成金交付事業(抜粋)

- 日進市より助成
・学生団体「チームわんわん」による介助犬の認知度・理解拡充活動
・学生団体「なないろ」によるLGBTQの認知度・理解拡充活動

●その他連携事業(抜粋)

- 東邦ガス株式会社との連携
学生団体「エネAS」が、ガスエネルギー館にてイベントを企画・運営
- 愛知医科大学との連携
瀬戸コンソーシアム事業「瀬戸こども食堂」を有志の学生が共同で企画・運営

●メディア掲載情報(抜粋)

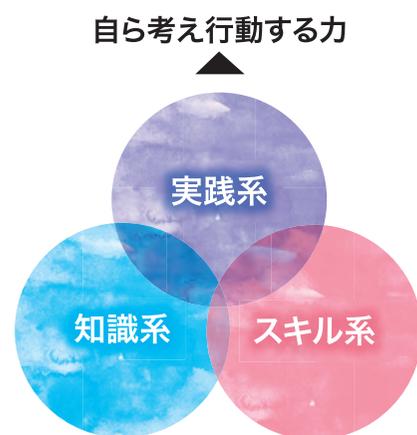
発行日	掲載紙	掲載内容
2020年 9月 9日	朝日新聞	オンライン新歓
2020年 10月 6日	名古屋テレビ「アップ！」	オンライン新歓
2020年 10月 21日	中日新聞(なごや東版)	名古屋コーチン協会と学生団体「名古屋コーチンもりあげ隊」が共同でアプリ開発
2020年 11月 1日	ボランティア情報誌ボラみみ11・12月号	大学生特集ページ～567(コロナ)ランナーズ～
2020年 11月 18日	中日新聞(なごや東版)	長久手市4大学連携事業 オンライン子ども食堂
2020年 11月 18日	教育學術新聞	コロナ禍の地域連携活動 全国5私大の取り組み紙上座談会
2021年 1月 1日	ボランティア情報誌ボラみみ1・2月号	大学生特集ページ～567(コロナ)ランナーズ～
2021年 1月 5日	毎日新聞	徳林寺でのオンライン日本語教室
2021年 1月 10日	中日新聞(なごや東版)	学生団体「なごやであそび隊」団体の活動紹介
2021年 1月 12日	日本農業新聞	名古屋コーチン協会と学生団体「名古屋コーチンもりあげ隊」が共同でアプリ開発
2021年 2月 18日	中日新聞(なごや東版)	長久手市4大学連携事業 オンライン子ども食堂

4 センターの取り組み

4.1 カリキュラム

地域へ、未来へ、走り出す。
自ら考え行動する力を育みます。

CCCでは、地域と連携して取り組む社会貢献活動に、学生が段階的にチャレンジできるよう「CCC開設科目」を開講しています。ボランティア活動の基礎や地域の方々と協働する上で必要となるマナーや支援方法などを学ぶ「知識系科目」、仲間と一緒に活動を起こす際に必要となる手法や考え方を学ぶ「スキル系科目」、社会が抱える問題の解決に向けて実際にアクションを起こすプロジェクト型の「実践系科目」など、多様な科目構成で実際の活動や将来に役立つ知識やスキルを修得します。



2020年度CCC開設科目一覧

●知識系

CCC スタートアップ講座	沖 直子 先生 戸澤 真奈美 先生
ボランティア	沖 直子 先生
障がい者支援ボランティア	荒賀 博志 先生
まちづくりマーケティング	大塚 英揮 先生 沖 直子 先生

●スキル系

企画立案の基礎	沖 直子 先生 丹羽 幸美 先生 今井 里香 先生
ファシリテーター養成講座	沖 直子 先生 伊沢 令子 先生

●実践系

CCCキズナプロジェクトA・B	沖 直子 先生
-----------------	---------



授業報告 「障がい者支援ボランティア」 荒賀 博志 先生

履修生の声



*授業のイメージを伝えるために、コロナ禍前の写真を用いております。

「障がい者」と聞くと、よくわからないことが多いのが現状だと思います。気にはなるけど、傷つけてしまったらどうしよう、よくわからないから何もできないと思うのは当然だと思います。こう思うのは「障がい者」のことを知らないからだと思います。授業では、どんな障がいの特性があるのか(身体、知的、発達、精神障がい)、対応・支援方法はどんなことがあるのかを講義と実技を通してみんなに知ってもらおうと思っています。今年は、車いす介助、視覚

授業を受ける前は障がい者を支援するには、資格や経験が必要だと思っており、街で見かけても助けられずにいました。しかし、障がい者にどうしてほしいかコミュニケーションをとりながら、支援することを聞き自分の中で障がい者への支援のハードルが下がりました。
交流文化学部 3年 三浦 真梨乃

障害者のガイド体験、重度身体障害者の日常生活の講演を実施することができませんでしたので、様々な動画を見てもらったり、メディアを通じて社会での障がい者の問題・課題や取り組みを調べてもらい、自分の考えを述べてもらいました。障がい者支援を通じて、学生の視野や考え方が広がり、「おたがいさま」という気軽な気持ちで今後、障がいがある人たちと関わっていけるきっかけになれば嬉しいと思っています。



授業報告 「ファシリテーター養成講座」 伊沢 令子 先生

履修生の声

受講者一人ひとりが主体的に学び、仲間と学び合いながら、「自分や他者や社会に関わる力」(自己肯定感、コミュニケーション力、合意形成力、対立解決力など)を身につけられるよう、自ら考え、発信し、聞き、話し合い、振り返ることを通じて、ファシリテーションについての学びを提供してきました。

授業では、ワークシートを活用した個人ワーク、小グループでの話し合い、協働ワークなどを織り交ぜて進めました。対等で安心感のある雰囲気の中での対話

毎回内容の濃い、充実した授業でした。この4年間、あれほどしっかりと自分の意見や考えを学生同士で話し合う授業を経験した事はありませんでした。考え方の多様性、社会は自分達で創るという事…この授業で学んだ事は沢山ありますが、今後社会に出た時、色々な人たちと関わる時、必ず役に立つと思います。
交流文化学部 4年 水谷 麻美

を通して、関わる力・コミュニケーション力を養っていただければ嬉しいと思っています。



授業報告 「CCCキズナプロジェクトA」 沖 直子 先生

履修生の声



このクラスは学生が地域に出て、実際にアクションを起こしていくプロジェクト型の授業です。今年度は新型コロナウイルスの影響で、5日間の集中講義を全てオンラインZoomでおこないました。連携先は、長久手市で障がいがある方も高齢の方も「ごちゃまぜ」な居場所をつくっているNPO法人楽歩。今回は焙煎珈琲をブランド化するために、学生発のユニーク番組を制作しました。チームごとに案を出し、授業最終日には楽歩の方もお招きし、オンラインで

“いま私たちのできること”を考える。この授業のスタートはここから始まりました。紙芝居アニメーション、クイズ、コントなど予想もしていなかった作品が出来上がりました。オンライン上での可能性は、想像以上です。新たな仲間との出会い、創造力、達成感などが得られる魅力的な授業でした。
文学部 3年 松山 桃子

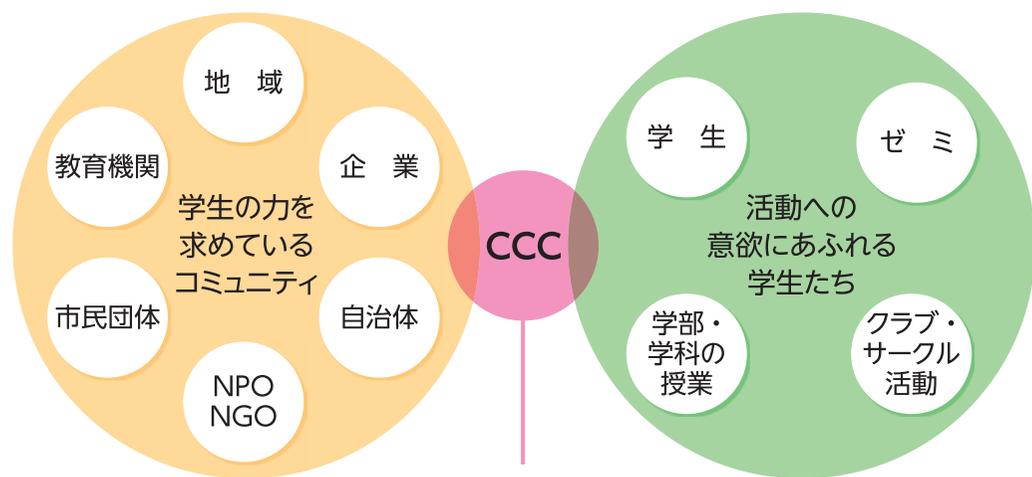
「上映会」を開催しました。オンライン紙芝居をつくるチームは、熱が入った結果アニメーション制作へと発展し、夜な夜な絵コンテ、セリフ、アフレコ、撮影、編集をおこなっていて、上映会は大いに笑って盛り上がりました。コロナによる緊急事態期間でも主体的な創作力が発揮され、履修生の活動の底力を感じました。

4.2 活動サポート

みんなが蒔いた「種」を、大きな「樹」に育てたい。
地域貢献、社会貢献活動をきめ細かくサポートします。

「チャレンジしたい!」と自主活動への意欲が芽生えるきっかけは、個人的な興味・関心、学部・学科の授業、ゼミ活動、クラブ・サークル活動など、学生一人ひとり異なります。そこでCCCは、学生とコミュニティとの出会いをコーディネートし、学生の思いを具体的な活動へと結び付ける橋渡しをしています。

特にCCCを拠点に活動する学生団体には、CCCスタッフが「アドバイザー」として寄り添い、活動を進めていく上で見つかった課題の解決をサポートしています。運営資金をサポートする「チャレンジファンド」(P.18・19参照)のほか、2015年度からは学外の地域団体とのコラボレーションを実現する「コラボメッセ」(P.8・9・10参照)を年1回実施するなど、支援制度を拡充しました。



学生とコミュニティをつなぎ、さまざまな地域活動を活性化します

サポートの3つの形

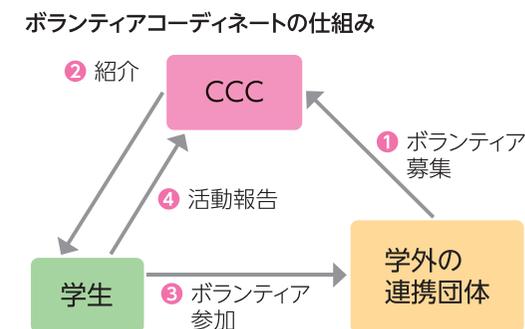
- (1) 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング … 15
- (2) 学生団体などによる自主活動の支援 …… 16・17
- (3) 【学内助成事業】チャレンジファンド …… 18・19

(1) 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング

自主活動に挑戦する学生の初めの一歩として、ボランティア活動への参加があります。

センターでは、ボランティア募集情報の収集、学生への紹介、学生スタッフらによる窓口相談などを通して、マッチングをおこなっています。

ボランティア募集情報は、センターでの掲示のほか、月に2回、全学生に電子発信しています。活動分野は、国際交流・協力、青少年育成、まちづくり、福祉、環境など様々です。2020年度は、延べ353人が活躍しました。



青少年育成 **ハロウィンイベント**
連携先：浄水交流館(豊田市)

私たちは豊田市の浄水交流館で小学生を対象におこなわれるハロウィンイベントに参加しました。今年度は顔出しパネル作成のみでの参加でしたが、コロナ禍でもイベントに来てくれた子どもたちに笑顔になってもらえるように、限られた時間の中で様々なアイデアを出し合い準備をおこないました。当日は、子どもたちのマスクの下からでも分かるほどの笑顔を見て、喜びややりがいを感じる事が出来ました。また、このような状況下でも出来る取り組みを考えるきっかけにもなり、自分自身も大きく成長することが出来ました。

健康医療科学部 2年 藤田 桃奈

国際交流・協力 **在住外国人の子どもたちについて学んで、その子どもたちの運動会を応援しよう**
連携先：国際子ども学校

2020年11月、フィリピンの子供たちが通う、国際子ども学校の運動会で使われるピニャータを作りました。製作に取り掛かる前に学校や在住外国人の現状についての勉強会もあり、義務教育への就学義務がないことや、子どもたちが経験する言語の壁について知りました。実際に運動会の様子を見ることはできませんでしたが、子どもたちの楽しい時間を少しでも盛り上げることができると、とても嬉しかったです。そういう気持ちを込めながら作るこの大切な瞬間も実感しました。私たちが暮らす近くにあることに関心を持ち続けなければならないと思いました。

グローバル・コミュニケーション学部 2年 梅村 実音

青少年育成 **オンラインで子どもの宿題・本読みサポート**
連携先：社会福祉法人せんねん村 多文化ルームKIBOU

新型コロナウイルスの影響で小学校が休校になりました。そのため、外国にルーツを持つ子どもたちは日本語に触れる機会が少なくなりました。少しでも日本語に触れる機会をつくる目的として、「あいうえお240」が始まりました。おしゃべりをしたり、しりとりをしたり、宝物を紹介したり、子どもたちも私も楽しみながら45分間過ごしていました。昨年は新型コロナウイルスによって、悲しい思いをすることが多くありました。ですが、オンライン上でも、子どもたちに楽しんでもらえるようにこの経験を活かして、これからも活動を続けていきたいと思っています。

交流文化学部 3年 大久保 菜実

青少年育成 **長久手市男女共同参画情報誌『にじいろ』のイラストを描こう**
連携先：長久手市役所

私は『にじいろ』のイラストを描く上で、自分が中学生だったころ“自分らしさ”に関連する道徳観や倫理観に対し疑問を感じていたことを思い出しました。先生や親の言動に納得できず、なぜそう感じるのかを証明できないことが多々ありました。なぜなら、他者との意見の共有をせず、自己のみで解決しようとしていたからです。私と同じような経験をしている人には、他者から新たな価値観を得たり、自分の思考を言葉やイラストにすることで考えを形にしたりしてほしいです。このような経験をするには、ボランティアは最適なかもしれません。

創造表現学部 1年 高谷 芽生

(2) 学生団体などによる自主活動の支援

ボランティア活動への「参加」に留まらず、同じ社会問題に共感する学生たちが集まり、課題解決に向け、自主的に活動しています。

CCCを基盤に自主活動をおこなっている学生団体を「CCC学生団体」とする、登録制度を設けています。その数は現在、約30団体。そのほとんどが、学生のみではなく、地域の市民団体・福祉施設・企業などと連携して活動しています。

CCC学生団体にはスタッフがアドバイザーとして就き、活動の「伴走者」としてサポートします。また、自分たちの体験を振り返るための自己点検報告書を共に作成し、支え合いながら活動を改善・継続できる仕組みを構築しています。



地域活動に向けてのミーティング

*活動のイメージを伝えるために、コロナ禍前の写真を用いております

地域 ∞ 学生 ∞ 環境 エコのつぼみ



私たちエコのつぼみは、里山保全を目標とする団体です。愛知県美浜町のNPO法人モリビトの会さんと連携し、竹林整備の実施や、地域の方に環境保全活動を広めるワークショップをおこなっています。この団体に入る前までは、里山の実態や、竹林についてあまり知らなかったのですが、この団体で、今の美浜町の竹林の状態や環境保全について勉強し、環境を守り続ける大切さを学ぶことができました。また今年度はコロナ禍で竹林整備や対面でのイベントが中止となり、思うようにいかないことも多くありましたが、オンラインでミーティングや準備を進めた結果、名古屋市河川環境課さんや東邦ガスさんとのオンラインイベントを実施することができました。これからも里山保全を知っていただけるような活動をしていきたいです。

交流文化学部 3年 東 百合子



地域 ∞ 学生 ∞ 福祉 あじゅあす

あじゅあす



私たちは、様々な施設でボランティアをさせていただき、障がいのある方や高齢者、児童と交流し

ています。様々な人とコミュニケーションをとったり、一緒に料理をしたり、外出したりすることで相手を知る大切さを学び、新たな価値観が生まれることを感じました。昨年度は新型コロナウイルスの影響で、ボランティア活動ができなくなってしまいました。しかし、ボランティア活動以外でも私たちができることがあるのではないかと考え、知的障がいについて知ってもらうためのパンフレット作りを活動としておこないました。これからも「私たちだからこそできること」はなにか考え、活動していきたいです。

福祉貢献学部 3年 中西 美羽

地域 ∞ 学生 ∞ 福祉 チームわんわん

チームわんわん



私たちは介助犬という手足が不自由な方の手助けをする犬の認知度を高めるために啓発

活動をおこなっています。今年度は新型コロナウイルスの影響でミーティングが対面でおこなえなかったり、毎年開催している小学校授業が中止になったりしました。しかし、オンラインで定期的にミーティングをおこない、メンバーとイベント開催に向けて準備を進めました。イベントでは小学生と直接会えない寂しさがありましたが、真剣に話を聞いてくれたり、介助犬のリーフレットを一生懸命作ってくれたりして、イベントを開催できて本当に良かったと感じました。また、オンライン形式でも啓発活動を継続的におこなうことの大切さを学びました。介助犬や補助犬に関する知識をより深め、今後も啓発活動に取り組んでいきたいです。

交流文化学部 3年 瀬戸川 愛望

地域 ∞ 学生 ∞ 震災支援 なごやであそび隊

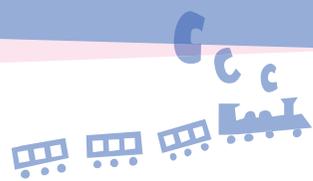
なごやであそび隊



東日本大震災から10年。私たちは、愛知県に避難された子どもたちの心が癒されるような居場所をつくる活動を続けています。コロナ禍では、子どもたちに「ありがとう」の想いを伝えるために、手

作りのクリスマスカード40枚を贈りました。メンバー全員集まっていたのは難しい状況でしたが、一人ひとりと連絡を重ね、全員に無理のない役割分担をすることで完成させました。クリスマスカードであることは同じでもデザインが異なるように、それぞれの自分らしさを尊重しながら進めることで、温かいところや空間が生まれることを学びました。これからも感謝の気持ちを忘れずに、一人ひとりを尊重しながらもチームで協力して活動します。

交流文化学部 3年 伊藤 菜々子



(3) 【学内助成事業】チャレンジファンド

CCCでは、学生による様々な自主活動を助成する「チャレンジファンド」を設けています。地域のニーズや思いに応える活動、社会的に意義の高い活動に対して、愛知淑徳大学後援会の協力を得て、資金面での助成と活動サポートプログラムの提供をおこなっています。

2020年度は、新型コロナウイルスの影響により、募集スケジュールの延期や活動に制限をせざるを得なかったため、様々な工夫をしながらの活動となりました。

「スタートアップ部門(助成額上限3万円)」、「一般部門(助成額上限7万円)」の2部門において、公開オンラインプレゼンテーション及び学内の教員たちによる審査の結果、9団体が採択され、それぞれの活動を展開しました。



2020年度チャレンジファンド採択団体一覧

法人名省略

	団体名	活動内容	主な連携先
スタートアップ部門	ロイナム	新型コロナウイルスで帰国できなくなってしまった、ベトナム人技能実習生の方々とオンラインで日本語交流をおこなう	名古屋市天白区 徳林寺
	Buzz-4U	SDGsの認知度を高め、行動に移してもらえることを目的に、SDGsゲームを考えるなどの啓発活動をおこなう	JICA 中部
一般部門	アミーゴ	県内の外国人児童を対象に多読活動、学習支援、就学前指導に取り組む	シェイクハンズ、西尾市教育委員会
	ウィンドオーケストラ	発災から10年の節目を迎える東日本大震災の風化を防ぐ一歩に繋げるため、「東北の今」をパネル展示で伝え、防災・減災への意識を高める	気仙沼市立気仙沼中学校吹奏楽部、気仙沼復興協会、気仙沼観光コンベンション協会、気仙沼ホテル観洋
	エコのつぼみ	竹林整備を通して得たポラス炭を活用し、気軽な環境保全活動をおこなってもらう機会を提供する	モリビトの会、ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ
	共同料理なごやか	コロナ禍においても、多世代に渡るつながりをつくり続け、心も体も元気でいられるような手作りの物を贈る	丁子田シニアクラブ、長久手市 三ヶ峯地区
	Fsus4	高齢者施設と障がい者施設に演奏とメッセージを収録したDVDを贈り、楽しんでもらい、つながりを持ち続ける	愛知たいようの杜、森孝しぜんかん
	チームわんわん	小学校での授業やワークショップを通じて介助犬の認知度・理解拡充を図る	日本介助犬協会
	ユニこまPlus+	今までおこなってきた、障がいがある人の服のリメイク活動をパンフレットにして様々な人へ共有する	ユニクロ星が丘テラス店、えとせとら、ファクトリエ星が丘テラス店、瀬戸市立瀬戸特別支援学校

2020年度採択プロジェクトのうち、4団体の活動を報告します。

スタートアップ部門

Buzz-4U 「Buzz GAME」

Buzz-4UはSDGsの普及を目的に立ち上げられた団体です。SDGsとはこれからも地球で、コミュニティの中で生きていくために達成すべきゴールを表したもので、より多くの人の理解と協力を必要とするものです。現在は大学生にSDGsを正しく理解してもらうためのゲームを作りながら、自分たちもJICA

中部でお話を聞いたり本を読んだりしてSDGsを勉強しています。新型コロナウイルスの影響で活動範囲が限られ不自由に感じることもありましたが、お互いが納得いくまで話し合いを重ねられたことで、ビジョンやアプローチ方法など細かな部分まで共有し着実に積み重ねができた貴重な期間になったと思っています



す。これからもSDGs達成のために、よりよい方法を探していきたいです。

交流文化学部 1年 本田 早伽

ロイナム 「シンチャオ! ~コロナ禍の出会いから~」

2020年7月半ばから、コロナ禍で帰国できず徳林寺に滞在するベトナム人技能実習生の方々と毎週オンラインで日本語交流をおこなっています。また、帰国された方に手紙を通して日本語を勉強してもらい、というプロジェクトを計画しています。毎週の活動は、どうしたら相手の方が楽しく勉強できるのか、必要とされる事が何かを模索しながらおこなっています。しかし、相手にも

様々な事情があり状況が頻繁に変わるため、準備しても活かせなかったという経験をした事が何度かあります。そんな時は臨機応変に対応する事を心掛けています。コロナ禍でもできる事があれば、という思いから参加した活動でしたが、私自身毎週ベトナムの方に会えるのをとても楽しみにしています。また、技能実習生の方々の実状を知り、直接声を聴き、彼らを取り巻く環境に問題が



あると強く感じました。チャレンジファンドを通して、このことを多くの人に知ってもらえればと思っています。

交流文化学部 4年 水谷 麻美

一般部門

アミーゴ 「子ども応援団」

私たちアミーゴは外国にルーツを持つ子どもたちと様々な活動を通じて、子どもたちの可能性や将来について見出すことを目標に掲げ活動しています。今年も交流会を開きました。この交流会では、子どもたちに今好きなことから将来のことまで自由に考えてもらう「ドリー

ムマップ」というものを作りました。制作してもらう中で子どもたちとの会話を楽しんだり、大学について話したりすることで、子どもも、私たち大学生も有意義な時間になりました。アミーゴはこれからも外国にルーツを持つ子どもたちと一緒に活動を続けて、一人ひとりと真剣に向



き合いながら子ども応援団として支えていきたいです。

交流文化学部 3年 佐藤 千晃

ウィンドオーケストラ 「吹奏楽で伝える“東北の今”」

私たちウィンドオーケストラはこれまで、実際に東日本大震災の復興地を訪れ、震災について学んできました。そして、フレンドシップコンサートを通して現地の中学生との交流をおこなってきました。今年度は新型コロナウイルスにより、現地を訪れることはできませんでした。そこで私たちは、これまでの学びを振り

返し、今年度もパネル展として報告することにしました。団員間で話し合う時間を増やしたことで得られた発見もあり、防災・減災の必要性について改めて考えを深めることができました。

東日本大震災発災から10年の節目を迎える今も東北の復興は進んでいません。1人でも多くの人が東日本大震災に



について考え、復興の輪が広がるきっかけになることを願っています。

交流文化学部 3年 山田 愛奈

5 学生スタッフの活動



※活動のイメージを伝えるために、コロナ禍前の写真を用いております

学生スタッフは、同じ学生という目線から、学生の持つ様々な思いを形にする重要な役割を担っています。会話を通して、一人ひとりの個性を活かし、新たなチカラを共に発見するお手伝いをしています。また、ボランティア紹介業務だけでなく自ら企画などもおこなっています。

2020年度 学生スタッフ

長久手キャンパス

- 驛田 彩音 (福祉貢献学部4年)
- 唐田 宏樹 (福祉貢献学部4年)
- 川口 紗奈 (創造表現学部4年)
- 梅津 真衣 (健康医療科学部2年)
- 神谷 結衣 (健康医療科学部2年)
- 北村 紗英 (人間情報学部2年)



星が丘キャンパス

- 青砥 祐太 (交流文化学部4年)
- 松浦 実咲 (グローバル・コミュニケーション学部4年)
- 水谷 麻美 (交流文化学部4年)
- 伊藤 菜々子 (交流文化学部3年)
- 三浦 真梨乃 (交流文化学部3年)



2020年度の主な活動

2020年 4月	CCC labo 1年生に向けた記事の更新
2020年 6月22日～7月13日	オンライン新入生歓迎会 大学祭実行委員会と共同 (クラブ・同好会・CCC 学生団体)
2020年 9月11日、14日	CCC オンライン新入生歓迎会 (CCC 学生団体)
2020年10月11日 11月21日、12月13日	オンラインコラボメッセ
2020年10月、11月	ボラみみより情報局×学生スタッフ ボランティア情報誌『ボラみみ』11・12月号、1・2月号の特集紙面の作成
2020年12月16日、23日 2021年 1月12日～14日、27日	学生スタッフ企画「つまみーの」の開催
2021年 3月22日	学生スタッフ活動発表会

CCC laboの記事作成 ～1年生のためにできることは?～

オンライン上での新入生との交流から、大学生という実感がなく、情報過多と孤独に苦しむ現状を知りました。そこで、学食やサークル等を紹介し大学生活を想像してもらうことや、教科書の購入や大学がおこなう教育支援等の重要な情報を伝えることを目的に、新入生に向けて発信することにしました。本企画を通して、学生だからこそ伝えられることは何かと自問自答する重要性を認識し、行動すること=困難を抱える他者の解決に向けた最適解の提示であると感じました。

1年生のみなさんへ⑤～大丈夫だよ！
キャンパスライフ☆テキスト(教科書)の
買い方について～
2020年5月11日

今回は1年生のみなさんが履修登録で悩んでいるんじゃないかと学生スタッフで話し合っ
て、Q&Aを作ってみました。CSもた
くさん来すぎて、情報をうまくつかめてい
ない方がいると思います。多くの授業が閉
鎖になっているかもしれませんが、15日ま
でまだあります。受けたい授業がみつかっ
たら、ぜひ、あきらめずに追加... Read
More >

在学生のみなさんへ①～大丈夫だよ！
キャンパスライフ ☆教科書販売やパス
ワードについて～
2020年5月11日

コロナウィルスの影響で現在は授業で大学
に行く機会もままならないですし、今年
は授業もオンラインでおこなうので、色々
わからないことができていました。お互い
悩みが1つでも解決するように、CCClabo
にQ&A方式で載せてみました！Qオンラ
イン授業に入ろうと思ったのですが、パス
ワードを忘れてしまい... Read More >

創造表現学部 4年 川口 紗奈

コラボメッセ第3部 ～CCC@homeライブ～

今年のコラボメッセは初のオンライン開催でした。そのため例年通り参加者全員で歌えなかった悲しさがあったのと同時に、これまで当たり前一堂に集まって同じ雰囲気や感動を共有できていたことのありがたさも実感できました。そして、一刻も早く「オンラインコラボメッセってあったね」と笑って過ごせるコラボメッセが訪れて欲しいと強く感じました。



交流文化学部 4年 青砥 祐太

ボランティア情報誌『ボラみみ』特集紙面 ～567(コロナ)ランナーズ～の作成

当初は報道等で、大学生の現状にあまり触れられず、私たちが『いま』何を感じているのか伝えたいと考えました。そして、この状況に対して前を向くことができている人も、そうでない人も、読んでいた

だくことのできるメッセージを込めたいと話合ったことを強く記憶しています。想いを発信する機会をいただいたことに感謝です。

福祉貢献学部 4年 唐田 宏樹



学生スタッフ発表会

今年度卒業をする学生スタッフによる、4年間の活動を振り返った「学生スタッフ活動発表会」をおこないました。

それぞれの分野で活動をした4名の先輩(国際協力分野：松浦実咲さん・水谷麻美さん、福祉分野：唐田宏樹さん、青少年分野：驛田彩音さん)から、後輩たちへ“ボランティアを通して、人と関わる楽しさを感じた”“言葉が通じなくても、心がつながれば人がつながれる”“楽しいだけでなく、葛藤したこともあった”“私だからできること”を大切に”などの思いが伝えられました。



参加学生の声

4年生の活動発表を聞き、私はボランティア活動の中に楽しさや嬉しさがある一方で、葛藤や悩みもあることを知りました。そして、それらが自分自身を成長させる糧になっていると思いました。私も先輩方のように、自分の成長につながる活動をおこなってまいります。

人間情報学部 2年 北村 紗英

講評

(元トヨタ自動車ボランティアセンター長 鈴木 様より)

何かを成し遂げようという姿勢が素晴らしいです。学生さんの強みはフットワークとチームワーク。活動はやってみないとわからない。きっかけは何でもいいから挑戦してみるべきだと思います。何事も、小さいことが重なって大きな力になるので、どんどんチャレンジしてほしいです。

卒業する学生スタッフの言葉

CCCでの活動を通してさまざまな方と出会い、たくさんの温かさを与えてもらいました。それが活力となりさまざまな活動に挑戦し、かけがえのない経験をすることができました。これは私の大学生活で最も誇らしいことです。今までたくさんの人から受け取った温かさを、次は私も地域の大人として周りの人へ繋いでいきたいと思います。

福祉貢献学部 4年 驛田 彩音

その人、境遇を知るには、現場に行き、肌で感じることの大切さを学びました。なによりも人が温かく、本気の大人に会わせたいと言ってくれた小島先生、スタッフの秋田さんがその1人です。4年間、ボランティアでできることはちっぽけなことでした。ですが、そこから他人事を自分事のように考えるという温かい心をCCCから学びました。

グローバル・コミュニケーション学部 4年 松浦 実咲

6 センター長より 2020年度 全体講評

コミュニティ・コラボレーションセンター
センター長 森 博子
(人間情報学部 教授)



2020年度は、誰もが予想しなかったコロナウイルス感染症が流行し、これまでの対面での活動ができなくなりました。しかし、「困っている人のために何かやりたい」という強い気持ちで、新しいことを次々と創出し活動できた1年になりました。

試行錯誤しながら、本活動報告書に掲載した、郵送やオンライン環境での活動を企画して実施しました。対面でなくても、人と人とのつながりを感じ、温かい気持ちになれたことは感慨深いものでした。これらの取り組みは広く認められ、テレビ局や新聞社の取材を何度も受けるようになりました。コロナ禍は大きな壁でしたが、学生がそれ

を乗り越えて地域活動・社会貢献できたことは、学生にとって大きな力、そしてたからものになったと思います。

これも、地域の皆様、企業・団体・行政の皆様、学内外の教職員の皆様より、貴重な機会を与えていただいたおかげです。ここに深く感謝いたします。今後も、ご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



7 初めてボランティアを募集される方へ

当センターでは、ボランティア募集情報の取り扱いについて、「ボランティア情報の取り扱いに関する方針」を基本としています。

ボランティアを募集される場合は、まずはHPでご確認いただき、お電話でご連絡ください。

URL: <https://www.aasa.ac.jp/institution/ccc/volunteer/01.html>

2020年度 CCC運営委員

- 委員長 森 博子 (人間情報学部)
- 三 和 義 武 (文学部)
- 大 崎 園 生 (心理学部)
- 村 上 泰 介 (創造表現学部)
- 山 本 周 史 (健康医療科学部)
- 中 村 弘 佳 (福祉貢献学部)
- ブイ チトルン (交流文化学部)
- 武 田 佑 太 (ビジネス学部)
- KHALMIRZAEVA Saida (グローバル・コミュニケーション学部)
- 高 森 順 子 (コミュニティ・コラボレーションセンター)

スタッフ

- 長久手キャンパス
- 内山 恵
- 沖 直子
- 山本 愛
- 加藤 由里子
- 西島 遊美
- 星が丘キャンパス
- 秋田 有加里
- 石塚 千夏